

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史とそば

— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 —

第67回 志木の伝説①

宝幢寺のお地蔵さんとカッパの話

志木の伝説、まずはカッパの話からお楽しみください。

「はてな、あれは馬の鳴き声ではあるまいか、この嵐の中でどうしたのだろ。」宝幢寺のお地蔵さんは雨仕度をして、ひどい嵐の中、錫杖しやくじょうをつけて出ていきました。お地蔵さんが雨風の中、柳瀬川のふちに出ると、「ああ」と驚き、声をあげました。雨にびしょぬれになった勘助の馬が四つ脚を泥の中に踏ん張ったまま物におびえて悲しい声で鳴いているのです。馬の後ろに、人間なら五、六歳位の子どものカッパが、茂みの根っこにしゃがんで、片方の手で馬のしっぽをつかんでぐいぐい引張って川に引き込もうとしているのです。何とか逃げようと馬は後脚を揃えて力

一杯高く後ろに蹴り上げるのですが、カッパはしっぽを握った腕を長く伸ばして小さいからだを低く伏せて踏ん張っているのです。カッパの腕は片方を長く伸ばすともう片方は縮んで、縮んだだけ伸び、力も倍以上強くなるのです。お地蔵さんはカッパのそばまで行って「これカッパめ、馬を放してやらんか。」と大声で叱りつけました。カッパもびっくりして飛び上がり、ペタッと泥の上に両手をついてひれ伏し、ぶるぶる震えてしまいました。不死身の上に神通力を持つお地蔵さんでは敵いません。「これからは決して悪いことはしませんからお許しください。」と一生懸命謝りました。お地蔵さんは「これカッパ、お前の罪は、仏の罰として重いぞ。死んで地獄に落ちてからの責め苦の怖ろしさだけでなく、次の来世では、二度とカッパに生まれてはこれぬぞ。せいぜいみみずにならなれ、もぐらやどじょうの餌になるのが関の山だぞ」と、きつく叱り論しました。カッパは「お地蔵さんのお慈悲でお助けください。」と必死に謝りました。お地蔵さんもあわれに思い、「これからは心を改めてよいカッパになるのだぞ。」と許しました。それから、宝幢寺の台所に朝早くフナなどの魚が置いてありました。寺の人達は誰からともなく、カッパがお礼に届けて来るのだらうと言いました。

この話は、文化6年(1809)刊行の「寓意草ぐういそう」や大正3年(1914)柳田国男の「増補山島民譚集さんとうみんたんしゅう」で和尚の慈悲と題する別の形で紹介されています。



▲(発行：志木市教育委員会)「志木の伝説」より



新たなフィールドで…

新年度がはじまり、市役所には、17名の新規採用職員が入庁しました。新入職員には、「超高齢化・少子化の進展や物価高騰など、目まぐるしく変化する時代においても『選ばれ続ける志木市』であるために、業務改善や市民の視点に立った新たな行政サービスに向けて、しっかりと声を出していこう」とエールを送りました。

さて、埼玉県市長会の調査によると、県内市では、市役所職員1人あたりの人口は平均で145人ですが、本市は県内で最も多い188人。少ない職員数であっても、行政改革の推進やICTの活用による効率的な運営を行い、質の高い市民サービスを提供することで、志木市は民間会社の自治体ランキングにおいても高い評価をいただくとともに、人口も維持できています。

しかしながら、今後、日本の労働人口はどんどん減っていきます。将来にわたって市民皆様の満足度を高めていくためには、優秀な人材の確保と職員のパフォーマンス向上に向けた働きやすい職場づくりも大切です。

本市では、令和7年度から「働き方改革推進事業」として、庁舎の窓口時間の短縮やビジネスカジュアルの導入、テレワーク勤務の拡充といった取組をスタートしていま

すが、4月からは第2弾となる「職員のさらなる働き方改革推進事業」を実施します。毎週金曜日は私が「家族・プライベートを大切にしよう！」とアナウンスし、18時30分には完全に市役所を消灯することで退庁を促す「金曜日一斉消灯デー」を設けます。また、男性職員も配偶者出産休暇や育休を取る時代、そうした職員の業務をカバーした場合に人事評価でポイントをアップさせる「休職者等カバー評価制度」の創設や業務の内容によってはTシャツなど効率的で働きやすい服装も導入していきます。

こうした他市に先駆けた取組で、令和7年度の新規採用試験の応募者数は、前年度より124人も増加し、人材の確保にもつながっています。これからも、「働きたくなる」志木市役所という視点も大切にしながら優秀な人材を確保し、持続可能な行政運営を維持していきます。

また、志木市では4月から小学校に576人、中学校には、667人の1年生が入学します。令和8年度は、未来を担う志木っ子たちが、元気に楽しく学べるよう、志木第二中学校の体育館の大規模改修工事や、昨今の猛暑を鑑み市内すべての中学校の必要な特別教室にエアコンを設置します。また、本市はそれぞれの学校で、学校栄養士が知恵と工夫を凝らし、季節の食材を取り入れた手作りの温かい給食を提供していますが、今年度は宗岡中学校の給食室の大規模改修工事を行うことで、引き続き、おいしく給食が提供できる環境を整えていきます。

新たなフィールドで第一歩を踏み出す新入職員や志木っ子たちは、志木市の成長と発展に向けた大切な宝。皆さんの可能性を最大限に引き出し、成長できる環境の整備をこれからもしっかりと進めていきます。